

みどりの 東北

MIDORI NO TOHOKU



Vol.
189

東北森林管理局



烏海山(秋田県、山形県) [提供: 東北森林管理局登山同好会]

特集

令和元年度国有林モニター現地見学会・モニター会議を開催 [企画調整課]

CONTENTS

■美しい森林づくり

次代を担う子供たちへの森林・林業体験活動を実施…………… [三八上北森林管理署]

■我が署の名所

山々と信仰、琴畑溪流とループ線…………… [岩手南部森林管理署遠野支署]





令和元年度国有林モニター現地見学会・ モニター会議を開催

企画調整課

国有林野事業では、国民との双方の情報・意見の交換など対話型の取組を進めています。その一つとして、国有林モニター制度を活用し、国民の要請の把握や、これを反映した国有林野の管理経営の推進等により、国民の皆様からの国有林野事業に対する幅広い理解と支援を得るよう努めています。

国有林モニターの方々には、資料提供や現地見学会を通じて国有林野事業についての理解を深めていただくとともに、アンケートや意見交換等により、国有林野事業についてご意見・ご提案をいただくこととしていきます。

東北森林管理局においては、平成30年4月から2年間、管内5県にお住まいの48名の方が国有林モニターとして活動しています。

1 令和元年度現地見学会

国有林モニター活動の一環として、

7月26日（金）に青森県の青森森林管理署管内において、今年度の国有林モニター現地見学会を開催しました。

平成30年度に開催した2回の現地見学会では、「治山事業」「森林整備事業」「森林病虫害対策」をテーマに各事業を見学しました。

今回は、日本三大美林の一つである青森ヒバ林や、青森ヒバ林復元プロジェクト実施箇所を見学することで、森林資源の循環利用に向けた東北森林管理局の取組について理解を深めることを目的としました。

青森ヒバ林復元プロジェクト

青森県東津軽郡蓬田村蓬田山国有林738ほ2林小班において、ヒバ林復元プロジェクトの実施箇所を見学しました。かつて青森ヒバが成長していた地域において、主に天然力を活用して、スギ・カラマツ林から青森ヒバ林へ復元する取組です。当箇所は平成29年に漸伐（上層のスギを伐採率50%で抜き

切り）を実施し、試験区を全7箇所設定して、青森ヒバ稚幼樹の成長推移や更新状況について調査しています。現地見学会ではそのうちの一つで青森ヒバの生育状況等を見学していただきました。

参加者から、周辺のスギ上層木の今後の施業方針や、青森ヒバ稚幼樹の更替状況、シカの食害などについて質問がありました。

青森市森林博物館

現地見学会当日、公共交通機関に遅れが発生したため、午前中に予定していた青森ヒバ林復元プロジェクトの見学間に合わなかった一部の方は、青森市森林博物館を見学しました。

青森市森林博物館は明治時代に建てられた旧青森森林局の庁舎で、建物は総青森ヒバ造りとなっています。屋外には森林鉄道で使用されていた車両が展示されています。

博物館では青森県の自然、青森ヒバの利用、津軽森林鉄道の歴史について

見学しました。また、実際に青森ヒバのにおいをかいだり、丸太や材を見学しました。

眺望山ヒバ希少個体群保護林

眺望山は青森県の青森市内から北西約20kmの場所にある標高は143mの山です。そのふもとにある青森ヒバの希少個体群保護林を見学しました。この保護林は大正7年に設定され、平均林齢は約215年で、原則として禁伐となっており、林内は原生林に近い青森ヒバの純林です。保護林の入口には津軽森林鉄道の橋脚やレールが残っており、森林鉄道と森林鉄道を使った青森ヒバの搬出について説明しました。林内は暗く、林床には青森ヒバの稚幼樹、倒木によってできたギャップがあり、その青森ヒバ稚幼樹やギャップを観察しながら、保護林の概要や青森ヒバの生態について説明しました。

青森ヒバとスギとの違いや、青森ヒバ林の遷移、生態等について質問がありました。

見学会を通して、モニターの方々から、「青森ヒバを育てるには長い時間が必要だと体感できた」「青森ヒバの存在を知らなかったので、現物を見ることにより、一層ヒバの生命力のすごさに魅力を感じた」等の感想をいただき、東北森林管理局の取組等についてより一層理解を深めていただくことができましたと考えています。



津軽森林鉄道について説明



プロットでの説明

会議では、はじめに森林・林業の歴史や、現在の森林・林業の動向、森林経営管理制度について説明しました。

11月22日（金）に東北森林管理局大會議室において、モニター会議を開催しました。2年間の任期期間中1回の開催で、国有林モニターの方々と直接意見交換することで、国民の要請を的確に把握することなどを目的としています。

2. 令和元年度モニター会議



ヒバの稚幼樹の観察



津軽森林鉄道で使われた橋脚に架けられた橋を渡り林内に入ります

次に、2年間の活動を通しての感想、国有林野事業に対する意見や提言をいただきました。この2年間で国有林

は、3つのテーマに分け、①国土の保全その他国有林野の有する公益的機能の維持増進（森林資源の循環利用、地域の安全・安心な暮らしの実現、森林被害の防止対策）、②林産物の持続的かつ計画的な供給（木材の安定供給、木材利用の推進）、③国有林野の活用による地域の産業振興又は住民福祉の向上への寄与（国有林野の利活用）を紹介しました。



質疑応答の様子

モニターの方からは、森林環境税の仕組等について意見質問がありました。東北森林管理局の取組について



東北森林管理局長挨拶

令和2・3年度「国有林モニター」の募集

東北森林管理局は、国有林の管理・経営に皆さまの声を役立てていくため、モニターを募集しています。

募集人員 48名程度 ※各地域内の人数及び年齢・男女比等の均衡を図るため、最終的な人数と前後することがございます

募集期間 令和元年12月2日（月）～令和2年1月31日（金）（当日消印有効）

任期 令和2年4月1日から2年間

内容 アンケートへの回答・現地見学会・国有林モニター会議への出席など
応募資格、応募方法など、詳しくは局HPをご覧ください、担当までお問い合わせください。

お問合せ先 東北森林管理局 企画調整課 林政推進係
TEL：018(836)2228 FAX：018(836)2031
e-mail: t_kikaku@maff.go.jp HP: <http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/>

野事業への興味関心が高まった」「モニター終了後も森林を意識して生活したい」との前向きな感想をいただくことができました。モニターの方々からの意見を国有林野の管理経営に活かすとともに、今後もしっかりやすい情報発信に努めて参ります。

美しい森林づくり

次代を担う子供たちへの森林・林業体験活動を実施 三八上北森林管理署

当署では十和田市立法奥小学校と連携し、3年生と6年生の「みどり学習（総合的な学習の時間）」として森林教室等を毎年実施しています。

今年度で11回目となる3年生の「ブナの森たんけん学習」では、郷土にあるブナの巨木とその周辺の森林を散策し、森の多面的な役割やそこで生きる生物の大切さなどを学ぶ活動を行いました。

また、6年生は3日間にわたって、「森林・林業・木材産業体験学習」を行いました。未来を担う子どもたちが森林や林業を目で見て肌で感じ体験することにより、地域の森林・林業・木材産業に関心を持つようになることを目的としています。今年度で7回目の開催となりま

ブナの森たんけん学習（3年生）

9月3日、十和田市奥瀬内山国有林にあるブナの巨木「森の神」周辺で、「ブナの森たんけん学習」を実施しました。推定樹齢約400年のブナの巨木「森の神」を目にすると、児童たちからは「大きいー！」と歓声が上がりました。巨木を見上げて、「本当に神様が住んでいるそう」というような感想も話していました。保護のために「森の神」には直接触れず、幹回りと同じ6mのロープを皆で広げて太さを確かめました。森林の役割と大切さについて説明した後は、自由に散策しました。児童たちは、ブナやトチの実、看板についたクマの痕跡などを見つけては熱心に観察していました。最初は緊張した様子だった児童たちも、帰りは積極的に植物を観察したり、ほかの植物と比べてみたりと、森林に対する興味関心が深まったように見えました。「初めてブナを見た」、「葉にいいにお

いがあった」、「トチの葉の色がきれい」というような児童たちが見つけたお気に入りもたくさん発表してもらいました。ブナの森たんけんを満喫してもらえたようです。



ブナの巨木「森の神」を体感

森林林業木材産業体験学習（6年生）

6年生は、9月26日・27日、10月23日の3日間で、森林のはたらきや林業、木材産業などについて学習しました。

1日目（9月26日）は当署職員が先生となり、教室での事前授業を行いました。森林の土と、植物が何も生えていない土で「水をたくわえる力」、「水をきれいにする力」、「土砂の流出を防ぐ力」にどのくらい違いがあるか比較する実験を行ったところ、森林の土から水が土からなかなか流れてこない様子や水がきれいな状態で流れてくる様子に、児童たちからは「うわあ、すごい！」と驚きの声があがっていました。また、適切に伐採・植栽を行って若い樹木を生長させることで光合成が活発になり、より多くの二酸化炭素を吸収することができることや木材は再生可能な資源であることなど学習しました。

授業前のアンケートでは、「木を伐ることは悪いこと」というイメージを持つ児童が多かったです。授業の最後には「適切に伐って利用することは大事なこと

とだと分かった」、「木材を使った製品を使っていた」といった感想を話す児童もおり、授業を通して木を伐ることに對するイメージも変化しようです。森林を持続的に管理することの大切さや、林業・木材産業の重要性にも気づいてもらえたように感じています。



「森のはたらき」の実験

2日目（9月27日）は、国有林の間伐箇所と地域の製材所に赴き、木が倒れる瞬間や丸太から柱・板に加工される工程までを見学しました。

間伐現場では、請負者の（株）倉岡素材造林職員から作業内容等のお話を聞いた後、チェーンソーによる伐採作業や高性能林業機械（ハーベスタ）での枝払い・造材作業を見学しました。目の前で木が倒れると児童からは拍手や歓声が起こり、普段見ることのできない光景に興味津々の様子でした。児童たちは「どういうときにやりがいを感じますか」、「一日に木を何本伐るんですか」など質問をたくさんしており、仕事としての林業にも興味を湧かしたようでした。

上北森林組合木材加工センターでは、丸太から柱や板等の製品が作られる様子を見学しました。児童たちは、加工過程で出た皮やチップも木材乾燥用ポイラーの燃料として利用しているという説明を受け、木材は無駄にするところなく全て

有効に利用できる素晴らしい資源だということも学習していました。



ハーベスタに乗ってみました

3日目（10月23日）は、有限会社若木建設のモデル住宅にて、木材が実際に住宅に使用されている様子を見学しました。モデル住宅はたくさん種類の木材が適材適所に使い分けられており、いろいろな樹種の特徴なども学習することができました。児童たちは、木のぬくもりや良さを肌で感じとっていたようです。

さらに、大工さん指導のもと、住宅建築時の余った端材を使ってペン立て作りやカンナかけ体験も行い、児童たちは楽しみながら木に親しんでいました。

この取組を通して、森林のはたらきや林業を循環させることの大切さ、木材が持続可能な資源であることなど児童たちに伝えることができたのではないかと考えています。



モデル住宅内の木材の説明

地域の子どもたちが森林・林業・木材産業に関心をもつきつかけとなるよう、今後も継続して取り組んでいきたいと思えます。



人命救助で感謝状授与

～遭難者の命を救った職員～

置賜森林管理署

11月2日、小国町の山々は紅葉が見頃を迎え、奥山ではこの時期によく採れるナメコやムキタケ類のキノコも見かけるようになり、晴天となったこの日も、町内の山には、山の恵みに授かるようと、たくさんの方がキノコ採りを楽しんでいるようでした。

翌日、新聞記事や、署に情報が入り知った事ですが、この日一人のキノコ採りの男性が山で滑落、骨折して動けなくなり遭難しているところを、近くに住む町内の男性に救助されたという事です。

その救助した男性こそ、当署非常勤職員の戸田弥市さん（置賜森林管理署OIB）です。

当日、戸田さんは、家で農作業をしていたところ、かすかに山の方から声が聞こえたような感じがしたとのことでした。

長年、町から捜索隊の委嘱を受け、また現役マタギとしても卓越した技を発揮している山の第一人者の直感が走り、声の

聞こえる方へ向かったところ、明らかに助けを求め声で、声の感じから歩ける状態でないことを察知し、携帯の通じる場所まで警察に応援要請、救助隊が到着するまでの間、救助搬送路確保のため、刈り払いを行いながら、遭難者には大声を掛け続け安心感を与えていたとのこと。その一連の言動が功を奏し、当日救助に向かった隊員1名が滑落してケガ（二次遭難）をするほど足場の悪い急峻な地形における救助は、戸田さんの先導によって夜9時までかけて、無事終わりました。

後日、戸田弥市さんには、町民の大きな命を救った功績が認められ、警察署長から感謝状を授与され、佐藤署長はじめ当署職員にも報告方々お披露目があり、佐藤署長からは、署に明るい話題の提供と地域に多大な貢献をしていただいたことのお礼の言葉をかけられました。

戸田さんは、特別誇らしげな言動も無く、感謝状には少々照れくさいところもあったようですが、救助した男性が快方に向かっていると、署長に報告した時の横顔には、ほっとした表情が伺えた一方、どんなに山に精通している人でも、山に入った



感謝状を授与された戸田弥市さん



ら決して油断してはいけないうと、厳しい目で語った一言は重く、改めて身の引き締まる思いです。

晩秋の山の夜の寒さと体力の消耗、時間との闘いで、発見が少し遅ければ最悪の事態も考えられ、関係者の戸田さんへの感謝の念は堪えません。加えて、職員の貢献というところから署にも感謝の声がたくさん届いたところ

です。

当署では、常日頃から積極的に地域との関わりを深めており、様々な立場分野で地域からも喜ばれているところですが、今回のことはまたひとつ署の明るい話題として、今後も後世に引き継がれることとなるでしょう。

令和元年度 いわて林業アカデミー（第3期）の研修生を受入れ

盛岡森林管理署

平成29年4月に開校した「いわて林業アカデミー」では、1年の研修期間で林業に関する知識や技術を体系的に習得し、将来的に林業事業体の経営の中核となり得る現場技術者を養成するための研修を行っています。

今年度の第3期研修生17名は、「いわて林業アカデミーサポートチーム」や東北森林管理局、岩手大学、森林総合研究所、林業事業体、指導林家等の産学官が連携した協力により、座学や現場実習に日々奮闘しています。

国有林関係では、盛岡森林管理署管内において6月18日の「二ホンジカ被害対策」に続き、9月19日（木）・20日（金）の2日間の日程で、当署職員が講師となり国有林の業務内容の紹介や事業フィールドを活用した研修を行いました。

1日目は、署会議室において安永署長より「東北の国有林について」と題し、国有林の施策や岩手県内での取組等について紹介しました。



安永署長の講義



17名の第3期研修生

午後は岩手町の四日市山国有林において、民国連携の取組として「岩手町横断松くい虫防除帯森林整備推進協定」に基づいた森林共同施業団地内での樹種転換に向けた取組状況や、昨年度設定した試験地において「2条、3条植栽による下刈の省力と郷土樹種（広葉樹）を活用した多様な森づくり」の概要と、本団地内に「民国連携木材供給加速化対策」を活用して新設している作業道（林業専用道規格）とストックヤードの整備について説明を行いました。



作業道新設状況の説明



民国連携の取組紹介



ストックヤードの概要説明



2条、3条植栽の説明

20日目は、紫波町の峠国有林において、列状間伐と作業システムについて生産請負事業実施箇所で説明を行いました。列状

間伐を初めて見たという研修生や壊れにくい森林作業道の作設方法に興味を示していました。また、この請負現場で実際に作業をしているアカデミー第一期修了生から、「現場では仲間と切磋琢磨しながら作業にあたっている。今後の研修では、重機やチェーンソーの取扱いに注意してほしい」との助言がありました。



森林作業道の施工状況



列状間伐の現地説明



アカデミー修了生から一言



列状間伐の実施状況

午後は、栗石町の上野沢山国有林において治山事業と保安林制度について、平成25年の豪雨による復旧治山事業の施工箇所で説明を行いました。



鋼製スリットダム工の施工状況説明



既設谷止工の説明

その後、滝沢市の影添国有林に移動し、平成29年度に東北森林管理局で開催された森林・林業技術交流発表会において当署で発表した「平蔵沢ヒバ人工林における天然更新による施業方法について」、樹齢約180年のヒバ展示林で説明を行いました。雪害により空間ができて、陽があたることによってヒバ稚樹の繁茂が旺盛になっている状況について説明し、ヒバの生命力の強さに驚いていました。



ヒバ展示林の紹介



ヒバの生育状況説明

研修後のふりかえりでは、「国有林では伐採や造林だけでなく、治山事業により大雨などによる自然災害からの復旧対策等も行っていることがわかった。より良い森林を作るために民有林と国有林の壁をなくしたり、効率化を進めながら

どんな変化がいつてほしい」、「国有林の現場を初めて見た。座学で学習した後、実際に低コスト林業の取組などを見学し、森林管理署で取り組んでいることを理解できた」などが出されました。盛岡森林管理署では、今後も講師の派遣やフィールドの提供等を通じて国有林の取組を紹介しながら、地域の技術者育成に向けて協力してまいります。

自衛隊岩手地方協力本部の協力による講話の開催 岩手南部森林管理署遠野支署

岩手南部森林管理署遠野支署では、10月10日（木）に衛生講話を開催しました。衛生講話は毎年10月上旬の国家公務員健康週間にあわせて健康をテーマに開催しているもので、今回は組織として健康と衛生的な環境を維持し業務を継続していく観点から、自衛隊岩手地方協力本部北上地域事務所及び二戸地域事務所の御協力を得て開催し、署員のほかに遠野警察署からの聴講者も加わり約30名が参加しました。

今回の講師をされた二戸地域事務所長の福島充2等陸尉は、陸上自衛隊衛生科の出身で救命救急士や准看護師の資格などを有する「衛生」のプロであり、自衛隊全体で最年少の地域事務所長とのことでした。

自衛隊では隊員の健康の維持には人事やサービスの管理が不可欠であることから指揮官の責務とされており、講話では自衛

隊の健康管理の区分である、①精神衛生、②体力衛生、③予防衛生、④環境衛生のうち、特に①と②について実践に基づく具体的な説明がありました。

精神衛生については、心の健康を保つためには「心を鍛えること」よりも「ストレスを溜めさせないこと」が有効であるとして、ストレス状態のチェック方法と自衛隊が災害の現場などで実践している「解除ミーティング」という取組が紹介され、私たちもグループを作り実際に行ってみました。この取組は一日の活動の終了後に、指揮官を中心としてグループの一人一人が一日の活動と感じたことを報告し、メンバー全員がその話に耳を傾けるというものです。単純なことのようにですが、その日のストレスをその日のうちに吐き出してしまふことで厳しい現場で精神のバランスを保つ効果があるとのことでした。

体力衛生については、自衛隊では「よく働き、よく食べ、よく眠る」ことが基本であり、徹夜による睡眠不足の回復には長時間を要すると注意喚起があったほか、近年増加している熱中症のリスクへの対応として、尿の色での脱水状態のチェックや脱水症状時には尿意をもよおすまで水を飲むこと、日常的な話題として、二日酔いの防止には飲酒時にビタミンCとレバーを摂取し、翌朝にはしじみ汁が良いことなどが紹介されました。

また、負傷時の救急措置として、簡易な止血方法などの経験に裏打ちされた実戦的な手法が紹介され、参加者は講話に聞き入っていました。

最後に、福島所長からは「同僚の命を救うのは、第一発見者であなただです。その勇気が尊い命を救います。今一歩前に踏み出して下さい。」とのメッセージがあり、この日の衛生講話を終えました。今



福島所長による講義



「解除ミーティング」の実習

回の衛生講話に御協力をいただいた自衛隊若手地方協力本部の皆様にご心から感謝申し上げます。

秋田林友クラブの紹介

総務課 三浦 真澄

私は、小学校4年から高校3年まで野球漬けの毎日でした。そして現在、秋田林友クラブに所属し休日には野球で心と体のリフレッシュをしています。

当クラブは11月2日(土)に開催された法務官庁野球大会に参加し、3年ぶりに優勝することができました。本大会は、昭和48年から開催している歴史ある大会であり、これまで多くの先輩達から受け継ぎをしながら、継続して参加してきました。

当クラブは、現在、局長をはじめとした現役世代とOBを含め50名程度の会員となっております。

話は戻りますが、法務官庁野球大会では、昨年優勝の秋田臨港警察署に7対5で勝利し、決勝を一昨年優勝の秋田県警本部と対戦しました。秋田県警本部は一昨年敗れた因縁の相手でしたが、序盤リードを許すものの、終盤に逆転し2対1で一昨年のリベンジを果たすとともに、2年間旅をしていた優勝旗を局長室に飾ることができました。

来季は、法務官庁2連覇を目標に、また全国官公庁野球大会出場(今年は準決勝敗退)を目指し頑張りたいと思います。最後に、怖い先輩が多いので、500

歳野球について紹介したいと思います。当クラブでは、若手主体のチームのほか、50歳以上で構成する500歳野球会員がいます。春先から、毎週土曜日を練習日としており若手も練習に参加しています。秋田県内で180チームが参加する大会で、ここ数年ではベスト32が最高成績で、ベスト16、ベスト8を目指して頑張っています。

当クラブでは、経験の有無、老若男女を問わず、プレーしたい方、観戦が好きな方、健康作りをしたい方、マネージャー希望の方、随時募集中です。大歓迎ですので、一緒に野球を楽しみませんか!!



法務官庁野球大会優勝記念写真



ゆかいな森のこびと図鑑2(冬芽と葉痕)

—オニグルミ、ミズナラ、トチノキ、コブシ、クス、ノリウツギ、リョウブ、サンショウ—

三八上北森林管理署 地域統括森林官 松尾 亨

冬芽や葉痕ようこん(葉の抜け落ちた痕)を、動物の顔や身近なものに見立てて観察することは、大人も子供も結構楽しめます。我々がコートや手袋で防寒対策をしているように、樹木も冬芽に防寒の工夫をしています。今回は冬芽と葉痕を「森のこびと」に見立てた楽しみ方で紹介します。

オニグルミは冬芽がビロード状の毛に包まれちょっと暖かそう、葉痕は羊や猿の顔に見えます。**ミズナラ**は重ね着上手で30枚ほどの芽鱗がりん(芽を包む鱗のようなもの)に包まれ、五角形で数個まとまって暖をとってます。**トチノキ**はネバネバした冬芽でコーティングされ膜があり四角形、葉痕と合わせてみると王冠の王子といった感じかな？**コブシ**の冬芽は1枚の芽鱗で、豪華な毛皮のコートに包まれフサフサ、全体を筆に見立てることも。書き初めには無理かな？**クス**の葉痕は「もののけ姫」のこだまにそっくり。たれ気

味の大きな目と縦長の鼻がいい雰囲気を出しています。**ノリウツギ**は何かの顔には見えるのですが、喩えるならニワトリ？コアラ？モアイ？甲乙つけがたいが、とぼけた感じがGood。**リョウブ**は葉痕が目玉で、芽鱗がはがれやすく傘に見立て、唐傘の一つ目小僧。**サンショウ**は、対生のトゲを手に見立て、冬芽をティアラとすれば小顔の王女様といった感じ。私なりの見立てでこびと達を紹介しましたが、皆さんなりのアイディア楽しんでください。

広葉樹は冬場の乾燥や寒さで、水分の運搬を行う導管のエンボリズム(凍結や融解で気泡が生じ水分不通となる)から身を守るため落葉します。裸木の方が寒そうに思えますが、水分消費を抑えた休眠のスタイルです。私の防寒対策は、休眠は無理なので、鍋や熱燗の工夫で、脂のノリも大事にしたスタイルで乗り切りたいですね！



オニグルミ



ミズナラ



トチノキ



コブシ



クス



ノリウツギ



リョウブ



サンショウ

森林官からの手紙

安家の郷 ただいま復活中

三陸北部森林管理署久慈支署 安家森林事務所 首席森林官 野場 和恵



放牧中の牛たち



春の安家森

私の勤務する安家森林事務所は、岩手県北上山地の東部に位置する本州一広い町である岩泉町の安家地区にあり、同地区内約12,700ha及び隣接する普代村内約280haの国有林を管轄しています。

東西に長い安家地区の真ん中を貫くように流れる安家川の流域には、絶滅危惧種であり町の天然記念物に指定されているカワシンジュガイが生息しているほか、希少な動植物が多く生息・生育しています。また、安家地区から町内岩泉地区にかけて延びる石灰岩層には多数の鍾乳洞が知られ、未調査箇所

も多く存在するそんな美しく神秘にあふれた自然豊かな地域です。安家川に沿って点在する集落を取り囲むように広がる国有林は地域と密接なつながりを持ってきました。林業はもちろんです、それだけではありません。



安家地大根

かつては各家で育てた大豆で手作りしたというずっしりとした『百豆腐』のほか、きのこや山菜などの森の恵みを生かした食文化と神楽や獅子踊りなどの

安家の地形は急斜地が多く、広い農地が確保できないことから主な産業は畜産業となっています。安家地区の国有林には放牧共用林が多く、かつて林内を放牧された牛たちが自由に行き来していたとか。今でこそ彼らのその姿は見られませんが、現在は管内の最高峰安家森（1,239m）付近も含む高原地帯に大きな放牧地が数か所（貸付地）あり、放牧された牛たちが悠々と草を食んで夏を過ごし、秋には里に下り冬を越します。

復旧工事は今も地区全域で続いております。地域は再生しつつあります。災害公営住宅は完成し、新たな役場支所も建設中です。年に一度催される『あつか感謝祭』では緑の中に地域の皆さんの笑顔に感じます。

国有林だけが止まってはいただけません。被災した森林事務所や林道の復旧も一朝一夕とはいかず、事業もままなりません。少しずつでも前進しなければなりません。



復旧が進む安家川

伝承文化などこれらが安家地区を豊かに彩っています。

平成28年の夏、台風10号が猛威を振るい、安家川はかつてない氾濫を起こし、多数の住居が濁流に飲まれ、県道、町道は寸断され、安家川の川端にあった森林事務所もひとたまりもなく流失し、管内の林道もその多くが通行不能となりました。



我が署の名所

岩手南部森林管理署遠野支署

TEL 0198-6212670
FAX 0198-6219298

岩手南部森林管理署遠野支署は、遠野市と花巻市の東部地域（旧東和町及び旧大迫町の区域）を管轄しています。管内には早池峰山などの名峰ほか、遠野物語や宮沢賢治ゆかりの地が数多く、これまでの広報でも紹介されていきますので、今回は少し視点を変えてみたいと思います。

その1 山々と信仰

当支署管内には信仰の対象となり山麓に里宮が鎮座し、山頂には奥宮が営まれている山々が数多くあります。山岳信仰は修験道との関わりが深いため明治初期に神仏分離が行われるより前には寺院（別当寺）であった神社もあります。

遠野市附馬牛町大出と花巻市大迫町岳に鎮座する早池峰神社は、ともに「瀬織津姫」を祭神とし早池峰山山頂に奥宮が営まれています。両社とも神仏分離より前は妙泉寺という寺院でした。遠野早池峰神社は妙泉寺時代の建造物が使用されており、寺院建築と伽藍を



岳早池峰神社の夜神楽



神遣神社の三姉妹の女神像



遠野早池峰神社の神楽殿



琴畑溪流の白滝



市道樺坂峠線のループ線

よく留めています。また、遠野と岳それぞれが特徴のある神楽を伝えており、夏に行われる例祭の宵宮には県内外からの夜神楽見物の客で賑わいます。

遠野物語では「神の始（はじめ）」として遠野三山（早池峰山、石上（神）山、六角牛山（ろっこうさん））の姉妹の女神の伝承が紹介されています。この三姉妹の女神というモチーフは北上山地の他地域にも見ることができ、遠野市附馬牛町の神遣（かみわかれ）峠は三姉妹がそれぞれの山へと別れた地とされ神遣神社が祀られています。

石上山と六角牛山を信仰の対象とする神社としては同市綾織町に石上神社、同市青笹町中沢に六神神社、同糠前に六角牛神社が鎮座し、人々の信仰を集めています。

遠野市宮守町と花巻市東和町の境にある砥森山（ともりさん）も信仰の山で、どちらからも一時間程度で登れる山頂（南峰）には宝剣が祀られ、宮守町下宮守と東和町田瀬には砥森神社が鎮座し、宮を祀ったことが宮守の地名の由縁と伝えられています。

さて、管内には神社が非常に多く、法人格があるものだけで88社（遠野市43社、旧東和町40社、旧大迫町5社）が鎮座し、山の神など民間信仰の小社（祠）は無数にあります。年間を通じて、どこかの社では例祭や神事などが行われており、訪ねて歩けば地域の民俗文化の豊かさを感じることができると思います。

その2 琴畑溪流とループ線

遠野市土淵町の琴畑溪流は新緑や紅葉の美しさで知られ、3月から9月にはイワナやヤマメを追って多くの釣り客が訪れます。琴畑川は市の上水道の水源でもあり、国道340号線から分かれて市道を進んで琴畑集落を過ぎると琴畑取水場があります。これを過ぎて国有林に入ると、遠野遺産「琴畑溪流と白滝不動」があります。遠野市では有形・無形の文化や自然を守り伝えるため「遠野遺産」の認定をしており、国有林内でも複数の遺産が認定されていますが、こちらもその一つで、琴畑溪流でも特に美しい「白滝」と、ほとりに祀られる不動尊が認定されたものです。

林道を進むとNPO法人「遠野エコネット」が当支署と協定を結んで放牧跡地の森林再生に取り組んでいる「琴畑水源遊々の森」があり、近接する沢筋には「琴畑湿原ハルニレ遺伝資源希少個体群落保護林」がありミズナラやハルニレの遺伝資源を保全しています。

さらに、琴畑林道から分岐する遠野市道「樺坂峠線」を登はんしていくとボックスカルバートを利用したループ線があります。小規模とはいえ真正銘のループ構造となっています。この市道は当初、琴畑高原の牧野に通じる農道「琴畑樺坂峠線」として昭和53年頃に開設されたものです。山岳国道などで採用されているループ線ですが、小規模な未舗装道路での施工事例は全国的にも特異ではないかと思われ、交通ファン垂涎の名所になることを期待しています。

